

東北宮城の祈り

～東日本震災報告～

東日本大震災支援対策事務所所長

(仙台発心教会長)

武山 孝行

三月十一日午後二時四十六分、未曾有の東日本大震災が起きました。地震直後、私は被災地三陸石巻河南インター出口交差点におりました。昭和五十三年の宮城県沖地震より遥かに大きく、大地が砕け散るような、突き上げるような、大きな大きな揺れでした。地震と大津波により平穏な日常生活を多くの尊い命が一瞬にして奪い去られてしまいました。震災から三日間はラジオの情報だけで、いったい他の地域はど



のような被害に遭っているのか全く見えない状態でした。四日目には電気が復旧し、テレビに映る故郷宮城の海辺の街や漁港、そして田畑の全てがこの世と思えぬ、驚愕の地獄絵図と化していました。当教会は、震災当初は御神前の祭壇をはじめ家財道具が全て倒れるなどの被害があったものの、建物自体は倒壊せず、私や家族も無事でしたので、震災翌日から地域の救援活動に奔走しています。

被災地の復旧復興再生には、長い年月がかかるものと思います。既に復興支援のため、大教庁はじめ全国の各教会、教師、信徒の皆様、そして一般の方を含めた多くの方々からたくさんの救援物資や支援金を送っていただき、深く感謝しています。非常に峻しく、厳しい道のりですが、私も皆様の心強い応援を後ろ盾として、地域復興のため、今後活動も続けて参りたいと思います。

「癒しは祈りの中にあり、癒しは神仏が下さる清く淨らかなる貴い御宝なり」

《大神様の御神徳》

◎被災後に御礼お参りに来られたの方々の御体験談です。

◆海岸から1.5キロの所にある某仙台工場では、地震発生直後に工場長の素早い判断で十五名を車で避難をさせ、工場長以下社員6名は徒歩で1キロ先の指定避難所の建物3階屋上へ避難しました。翌日、月参りをいただいたという工場長の奥さまを含め、総勢二十二名で全員無事の御礼のお参りをいただきました。

◆仙台港で働く、月参りの信徒の男性は午後の勤務を3月から午前中の勤務に変えてもらい難を逃れました。

◆以前に大神様に御助けをいただいた信徒の妹さんは、避難の途中に大津波に車ごと巻き込まれました。津波に車が揉まれ、ドアが開かず車内が水で一杯になった時には死をも覚悟したそうですが、辛うじて車から脱出でき、波に飲み込まれ流されてフェンスにぶつかり、網にしがみついたよじ登ったマンションの住民に救助され一夜を過ごし、翌日の午



後3時頃に自宅にたどり着けたそうです。「水が車内に入ってきた死ぬかも知れない」とのメールを受信後、連絡の途絶えた妹さんを心配され、当教会に来られ泣きながら妹を助けると御祈りされましたが、そして妹さんの無事が確認された日に姉妹共々「ありがとうございます」と泣きながら御礼参りに見えました。

◆月参りをされている某会社の社長さんは、大津波により海岸から1.5キロの所にある営業所を失くされました。しかしこの日は本社で会議があり、営業所の男性社員全員は本社へ出張、留守を預かる女性社員は当日子供さんの卒業式のために休みを取って

たため、営業所の全員が無事でした。

◆港から1キロの所にある某会社の部長さんは、大津波から逃れようと車で避難する途中で渋滞にはまってしまいました。大津波が来たのを察知し、車から慌てて飛び出し目の前にあつた某大手スーパーの前の歩道橋に素早く上がるも、大水を破り必死に手摺りにすがって津波が収まるのを待ったそうです。波が静かになつてから道路に出てガレキと胸近くまでの水、降りしきる雪の中を歩いて夜十時過ぎに無事帰宅した妹さんが御礼のお参りに見えました。

